

2020 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 入選

—つ—つ

(原文は英語)

ジュリアヌ・フランセスカ・バース (13 歳)

フィリピン・ケソン市

若い頃の私へ

もし私が「10 年後は世界中で戦争が起きていて、パンデミックや感染症に見舞われ、行く先々で人種差別は当たり前」と言ったら、あなたはどうしますか。私のことを信じますか。そんな仮定の運命から目を背けますか、それとも、そういうものだとして受け入れますか。もし私が、これとは別のことが起こったのだと言ったら、今よりも信じる気になりますか。「世界が突然変化して、人々も変わったのだ」、「空気はきれいになって、国家間の緊張はなくなり、これまでよりも緑豊かな環境になり、私たちは人それぞれの短所を受け入れ、調和のとれた一つの人類として生活するようになった」と言ったらどうでしょう。こんな話であれば、喜んで信じますよね。信じてください。確かにそれが真実なのですから。

今は 2030 年。私があなたに伝えたいのは、世界中で一人一人が、これまでよりほんの少し努力したことで、この 10 年間にどれだけの変化が起こったのかということです。私が今いる場所から見える光景を説明しましょう。私は今、広々とした自宅の床に座ってこの手紙を書いています。私の左側には散らかった机があり、その上には 3 年前にプレゼントしてもらったソーラーライトがあります。右側には台所に通じるドア、正面には外の通りがよく見える、幅の広い窓があります。表では子どもたちが遊び回っていて、大人たちはいつものように近所の人とおしゃべりしながら、物売りから品物を受け取ろうと並んで待っています。通りは食べ物などを売る人たちであふれています。人々は以前ほど頻りに食料品店に行かなくなりました。私が住んでいる通りの奥には、かつて山のような大型のゴミ収集箱がありましたが、近隣の人たちで対策を取り、代替作物を栽培する小さな土地スペースとして、ここを再利用することにしました。10 年前のパンデミックで経済的被害を受けた人たちが手入れをして、健康な土づくりがされています。昔は貧困生活を送っていた人たちですが、政府やボランティアの支援を受けて新しい生活をスタートさせました。

状況は以前よりも良くなりましたが、これは大きな犠牲を伴いました。世界は回復に向かってはいませんが、環境破壊の跡がいまもはっきりと残っています。国によっては、1 カ月以上も続いた森林火災でその大半が失われ、いまだに回復していないところもあります。10 年前に島々を襲った津波により、人々が散歩していた非常に美しい海岸の一部が浸食されました。私たちの海は、無責任で無神経な人

たちが捨てていったゴミが積み積みしたことによる、長年の環境破壊を耐え忍んできました。そこから回復するにはまだまだ時間がかかります。人類が犯した自らの過ちが巡り巡って私たちに降りかかり、ある意味、それまで誰もが普通にしてきた物事のやり方を、互いに協力して大きく変えざるを得なくなったと言えるでしょう。ルールを修正し、境界線を変更し、環境に優しいシステムを導入し、これまでよりも開かれた平等な社会を選ばざるを得なくなりました。私たちが地球を限界にまで追いやった結果、皆が当然の報いを受けることになったのです。

私があなたにこの手紙を送るのは、失われる危機に面しているものが何であるかということを知ってほしいからです。それは、あなたの未来です。今、あなたの周りには問題があふれていますが、これからも前向きで希望を捨てずにいてくれるよう祈っています。あなたにこの手紙を書いているのは、未来を信じ、自分にもう少し自信を持ってほしいからです。これが、今私からあなたに伝えたいアドバイスです。できる限りベストを尽くし、手助けをし、恐れずに意見を述べ、他の人たちにも同じことをするよう働きかけてください。より良い未来があなたに必ず訪れることを願って、私はあなたにこの役割を委ねます。私はあなたに約束します。2030年の世界では誰もが学ぶことを止めず、自分たちの生き方を改善し続けているということ。時間はかかったかもしれませんが、これまでに学んだ教訓を活かして世界を立て直していきます、ゆっくりと、一つ一つ。

愛をこめて

ジュリアンヌより